

## 環境に優しい 「まちのランドマーク」となる 工場を目指します



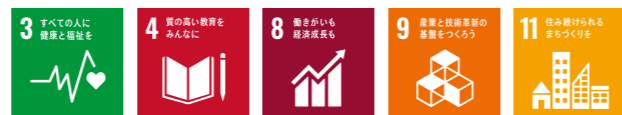
## 株式会社シーエスラボ

館林市

- ▶ 代表者: 林 雅俊
- ▶ 設立年月日: 2004年7月28日
- ▶ 資本金: 3,000万円
- ▶ 従業員数: 208人

住所: 館林市近藤町605-4  
TEL: 0276-76-2312  
Mail: boss@cs-lab.co.jp  
URL: <https://www.cs-lab.co.jp/>

当社HPへは  
こちらから→



### 企業紹介

化粧品・医薬部外品等の企画・開発および受託製造(OEM)を行うプロフェッショナル企業です。企画/研究開発、マーケティングから物流業務まで、お客様のお手元に届くまでのトータルマネージメントを提供しています。また「協創共栄」の理念のもと「SDGsのリーディングカンパニー」を目指すべく、2020年9月に地域や環境に優しい「館林本工場」を竣工しました。



### 経緯・背景

- ・からっ風、日照時間の長さという特有の気候により、群馬県はお肌に厳しい環境があります。
- ・農業従事者の高齢化に伴い、耕作放棄地が多く生まれています。
- ・群馬がん治療技術地域活性化総合特区ゆえ県民のがん罹患率低下にも貢献したいと考えていました。しかし館林の名産であるボイセンベリーがそれに寄与できる可能性があるにもかかわらず、収穫量や販路の少なさが原因で全国的認知度が低いため、実現できておりません。

### 具体的な取組

- ・耕作放棄地を借り上げて、自社のボイセンベリー農場を設営し、群馬県立館林高等特別支援学校と共に栽培しております。
- ・県特有の気候に適応するため、原料メーカーとタイアップしてオリジナルとなるボイセンベリーの原料化に成功しました。そこに独自の技術を駆使して、高保湿なオールインワン化粧水を研究開発および製品化しました。
- ・桐生市の(株)アートとタイアップし、群馬県産シルクの美肌保湿成分とボイセンベリーを高配合した石鹸を開発することで、地域名産品の掛け合わせを実現しました。またコールドプロセス製法を用いることで、CO<sub>2</sub>削減に努めることに成功しました。
- ・例年行事として、ボイセンベリー収穫祭を生産農家団体の「ポテトクラブ」を主催者とし実施することで、収穫量の促進ならびに製品化の遡及を推進しています。
- ・館林市長から、日本遺産「SATO-NUMA」をPRすべく「夏の城沼花ハスマ祭り」において城沼のほとりでボイセンベリーのかき氷を多くの参加者に召し上がっていただきたいとの依頼がありました。かき氷の製造販売経験がないものの、ボイセンベリー農家とタイアップして試行錯誤のうえシロップを作り、氷の削り方にもこだわったかき氷を開発販売しました。また、ボイセンベリーの認知度向上を目的としてジュースや苗等の関連商品の販売のみならず、健康に良い旨を記載したチラシを配布して県内外の観光客に訴求しました。
- ・学校や行政等より依頼を受けた外部講演においては、上記取組を盛り込み、ボイセンベリーの普及に努めております。



### 成果・効果

- ・化粧水は、市内にある農産物直売店・薬局・ホテル・菓子店等から、継続的な受注をいただいています。また去年は(株)群馬銀行の行内販売でもご好評いただきました。そのため販売数は年々増加傾向にあり、ボイセンベリーの認知度向上に寄与できています。
- ・当初想定していた顧客層と比較して、壮年層からの好評価・リピートをいただいています。その理由として、保湿力が高いとの声が多く寄せられています。
- ・館林特別支援学校の生徒との共同作業を通じて、その助けもあり前年比1.5倍の収穫量を達成できます。また、知的障がい者の農業への適性をあらためて皆が確認できました。
- ・「夏の城沼花ハスマ祭り」で販売したかき氷は、来場者アンケート調査で90%以上の満足度を獲得し、当初の予定数を上回る販売数となりました。
- ・上記の活動をする中で、新聞社テレビ局各社からの取材を多く受ける機会も増え、さらにボイセンベリーの地域特産品としての認知度向上につながっています。
- ・地域未来牽引企業に経済産業省から認定を受けました。



### 当社にとってのSDGsと、その展望

県内の名産等のリソースを活用し、ボイセンベリー製品の六次産業化を促進することで、「県民のがん罹患率低下」「お肌の美しさ」に寄与し続けます。また法定雇用率によらず障がいのある方の雇用を増やし、収益性の高い特例子会社設立をすることで、県内の法定雇用率上昇に寄与いたします。